



もいまち

平成31年(2019年)2月

第78号

# 議会だより



## 《主な内容》

本会議審議結果

2～3 ページ

先進地に学ぶ

4～5

一般質問

6～9

学校統合による課題と対策は 他

議会からのご報告

10～13

写真／出初式

投稿者：ラッキーさん

発行 静岡県森町議会

# 12月定例会

森町議会は、12月定例会を4日から20日までの会期17日間で開催しました。補正予算など10議案について審議しました。

一般質問は「学校統合による課題と対策は」など8人が質問しました。

(6～9ページに掲載)

## 補正予算

### 一般会計補正予算(第7号)

|    |             |
|----|-------------|
| 追加 | 2094万8千円    |
| 総額 | 81億1839万1千円 |

### 担い手育成総合対策事業

農地中間管理事業を活用し、地域の担い手へ農地の集積と集約化を実施した一宮地区農業推進委員会へ、地域集積協力を交付する。

協力はバイプラインの再整備の財源として活用する予定

(998万円)

### 自立支援給付費

補装具に対する給付費の不足が見込まれるため、予算を増額する

(190万円)

※補装具……身体の欠損や損なわれた身体機能を補完・代替する用具(義足・補聴器など)

### コミュニティ消防センター建設費

牛飼地区に建設を予定している、消防団のコミュニティ消防センターの建設費が不足したため増額する

(669万1千円)

### 県単事業負担金

三倉大府川の県道袋井春野線永代橋付近の道路改良進捗に伴い、県への負担金を増額する

(151万9千円)

### 補正予算に対する討論

**反対** コミュニティ消防センター建設費が坪あたり120万円は高すぎる。考え直す必要がある。

(西田議員)

**賛成** 豪雨や台風に伴う巡回警備の機会が増加し、拠点整備が消防団や地域から求められており、早期に建築されるべきである。

(岡野議員)

**反対** 今ある消防施設は、また十分使役できる。過剰な強度、高額な建設費、優先度などから考えても妥当とは思えない。

(鈴木議員)

**賛成** 障害児者等の補装具費給付費、一宮地区の農地集積・集約化対策事業協力金など、県の補助金等を有効に活用した予算となっている。

(小澤議員)

## 条例

議員、特別職、教育長、一般職の期末手当を0.05か月分引き上げる

### 議員の期末手当

### 引き上げに対する討論

**反対** 現在、景気が良くなっていると感じる人は少ないと思う。町の税収が横ばい若しくは減収傾向となっている中で、引き上げを行うべきではない。

(西田議員)

**賛成** 森町の議員報酬は、伊豆を除けば県内で下から2番目であり、兼業でない生活が厳しい。若干の期末手当の引き上げは、町民の理解も得られると思う。

(小澤議員)

### 森町手話言語の推進に関する条例

#### 【制定】

手話が言語であるという認識に基づき、手話に対する理解の促進と、手話の普及のため、基本理念、町の責務、町民等の役割を示した条例を制定

(詳細は、15ページ下段)

### プロジェクターの使用及び動画配信を開始

ICT活用推進委員会では、効率的・効果的なICT活用を推進するために、一般質問におけるプロジェクターの使用と動画配信について研究・試行を重ねてきました。

プロジェクターの使用については、9月及び12月定例会の一般質問で実地試験を行い、周囲を煩わすことなく効果的に活用できることを確認し、今後も継続的に使用することとなりました。動画配信については、12月定例会の一般質問を録画して試験配信を行い、「知りたい内容が早く聞けた」など、視聴者からの「意見も多数いただきました」。

今後は、ライブでの配信や音質の向上を視野に入れ、効率的・効果的な動画配信を進めていきたいと考えています。



一般質問の動画

# 11月臨時会

森町議会は、11月臨時会を12日に開催し、補正予算など3議案を審議しました。

# 森町の全教室に エアコン設置



## 11月臨時会の審議結果

|      | 議案名                          | 結果   | 備考   |
|------|------------------------------|------|------|
| 専決   | 専決処分の報告承認                    | 承認   | 全員賛成 |
| 補正予算 | 平成30年度森町一般会計補正予算(第6号)        | 原案可決 | 全員賛成 |
|      | 平成30年度森町公共下水道事業特別会計補正予算(第2号) | 原案可決 | 全員賛成 |

## 12月定例会の審議結果

|      | 議案名                                     | 結果   | 備考                         |
|------|---|------|----------------------------|
| 条例   | 森町職員の自己啓発等休業に関する条例の一部を改正する条例            | 原案可決 | 全員賛成                       |
|      | 森町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例     | 原案可決 | 反対<br>西田議員<br>鈴木議員<br>加藤議員 |
|      | 森町特別職の職員で常勤のもの給料等に関する条例の一部を改正する条例       | 原案可決 | 反対<br>西田議員<br>鈴木議員<br>加藤議員 |
|      | 森町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例    | 原案可決 | 反対<br>西田議員<br>鈴木議員<br>加藤議員 |
|      | 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例               | 原案可決 | 反対<br>鈴木議員                 |
|      | 森町手話言語の推進に関する条例                         | 原案可決 | 全員賛成                       |
|      | 森町手数料条例の一部を改正する条例                       | 原案可決 | 全員賛成                       |
|      | 森町特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例 | 原案可決 | 反対<br>鈴木議員                 |
| 補正予算 | 平成30年度森町一般会計補正予算(第7号)                   | 原案可決 | 反対<br>西田議員<br>鈴木議員<br>加藤議員 |
|      | 平成30年度森町公共下水道事業特別会計補正予算(第3号)            | 原案可決 | 全員賛成                       |

### 補正予算

一般会計補正予算(第6号)

追加 2億7275万5千円  
総額 80億9744万3千円

- ・全普通教室／83室
  - ・優先度の高い特別教室／26室
  - ・6月末までに事業完了を目指す
- 幼稚園・小中学校空調施設整備事業  
町内の全ての幼稚園・小学校・中学校の普通教室等にエアコンを設置する(2億6910万円)

**問** 統廃合を進める上での考えは  
**答** 5年を超えないと補助金返還の対象になるため、無駄にならないような使い方をしていく

**問** 夏までに事業完了はできるのか  
**答** 中学校区ごとに3つに分けて設計をし、できた順に順次発注する予定で、6月末には完了させたい

### 専決処分

台風24号の被害報告を142件受け、災害復旧にかかる補正予算4393万円の専決処分を承認した。



幹線道路への倒木(アクティ森付近)

第一・第一常任委員会は、11月14日、15日に、各委員会の所管事項の先進地を視察しました。

小山町は、静岡県の最北東に位置し、人口18859人、世帯数7754戸、面積135.74平方キロメートルと、森町とほぼ同じ規模です。

東京都心から100km圏内にあり、予算規模は、平成30年度当初予算で124億8千万円となっています。

2年後に新東名高速道路が開通し、「(仮称)小山PA」にスマートインターが建設され、同時に東名高速道路「足柄SA」にもスマートインターが建設されることから、国や県から職員を招き、大規模なプロジェクトが推進されています。

三来拠点事業

富士のふもとに三来拠点、3つの未来がはじまる町・小山、こうちゅうキャッチフレーズで、湯船原(約300ha)、小山PA周辺(約150ha)、足柄SA周辺(約64ha)の3地区に、工業団地や住宅団地、太陽光や木質バイオマス発電によるエネルギーの創出、次世代施設園芸団地、観光交流人口拡大のための観光施設など、計画的に実施されています。

挑戦する小山町に学ぶ

町長戦略課が最初に取り組んだのは、総合計画が、町長マニフェストに則していないため「自治基本条例」を策定し、進捗状況に合わせ、毎年新たな総

合基本計画を表すこととしました。

町長戦略課は、常に職員全員が同じ方向に向かっていけるよう、指揮するのが仕事であるとの説明でした。

子育て支援事業の「きんたろうひろば」は、約8000万円で建設、子育て支援員と保育士が常駐し、定期的に支援講座やイベントを行い、親同士も集える場所として、毎日約50人が利用しているとのことでした。

今後の子育て支援としては、三来拠点事業で2019年から7年間で約3000人の増加が見込めるので、開発地域に新たに「認定こども園」を建設すること、さらに3つの保育園、3つの幼稚園を全て統合し、認定こども園とするとの説明でした。



子育て支援センター「きんたろうひろば」

三来拠点事業と移住定住施策

移住定住施策

小山町では、居住環境の整備と結婚・出産・子育て環境の整備を前提として、定住促進事業助成の制度化、不動産バンクの創設、更に宅地分譲事業として、優良田園住宅等の分譲住宅5地区、計91区画を造成し、順調に分譲販売が進められています。

小山町では、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と人口ビジョンに基づき、ソフト・ハード両面から移住定住対策を着実に進めています。

富士山の裾野に広がる小山町は、標高300mから800mの緩傾斜地帯が多く、森林を伐採すれば、比較的容易に工業団地や住宅団地の造成ができる地形ではありますが、用地取得や開発行為の手続き、財源の問題などを含め、短期間で大規模な事業を進められたことに大変驚きました。

特に、民間活力を活用した官民一体となった事業展開がされており、多くの学ぶ点がありました。



県企業局が造成した湯船原工業団地 (面積 31.4ha)

# 先進地に学ぶ

## 第一常任委員会調査事項

- ・ 挑戦する小山町に学ぶ
- ・ 福祉の先進地山梨市に学ぶ

## 第二常任委員会調査事項

- ・ 三来拠点事業と移住定住施策（小山町）
- ・ 移住定住と次世代エネルギーパークの取組（山梨市）

第一・第二常任委員会は、11月14日、15日に、各委員会の所管事項の先進地を視察しました。

山梨市では、すでに28年度までに、エアコンが設置されており、その内容調査を行いました。

山梨市は盆地であり、夏は猛暑、冬は厳冬のため、以前よりエアコン設置要望が多く、国への補助を粘り強く働きかけ、補助決定が実現しました。メンテナンスと10年間のランニングコストを計算、比較して、ガスヒートポンプ式とし、使用設定温度は、国の基準17度から28度との説明でした。

山梨市と森町の気象環境の差を考えると、判断基準は異なることもありませんが、いろいろと参考になる視察となりました。

山梨市は、甲府盆地の東部に位置し、人口35028人、世帯数14618戸、行政区の面積は289.87平方キロメートルですが、その8割を森林が占めており、豊かな自然に恵まれています。

また、都心から約100km圏内にあり、JR中央線や、中央自動車道で90分という交通の利便性に加え、桃や葡萄の名産地として知られています。

### 福祉の先進地山梨市に学ぶ



山梨市職員からの説明（山梨市役所内）

視察全体を通し、10年先、20年先の町のビジョンをしっかりと持ち、具体的に官民挙げて進めている姿勢が強く印象に残りました。

### 移住定住と次世代エネルギーパークの取組

山梨市では、平成18年度に空き家バンク制度をスタートし、宅地建物取引業協会と協定を結びとともに、空き家提供事業奨励金等の支援策を行っています。

### 次世代エネルギーパークの取組

山梨市では、平成18年5月にバイオマスタウン構想を公表、地域の特性を



木質ペレット製造工場（飯島製作所）

活かした資源循環型社会の実現を目指しています。

現地調査は、木質ペレット製造工場、エコハウスやまなし、街の駅やまなしの3か所を視察しました。

小山町では、町長の政策を基に総合計画の見直しを行い、全職員が課題を共有するとともに、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と人口ビジョンに基づき、三来拠点事業など、官民一体となった持続的な取り組みが推進されていきました。

また、山梨市では、次世代エネルギーパーク計画等、バイオマス資源と自然エネルギーを活用した資源循環型社会の先進事例を視察することができ、大変有意義な所管事務調査となりました。



吉 筋 恵 治

### 学校統合による

### 「課題と対策」は



#### 吉筋

平成30年6月議会において、町長より、学校統合の話が出されてから、教育委員会も何度も説明会を開くなどしている。

その中で、色々課題なども示されはじめていますが、2点伺う。  
1点目は、廃校後の利活用を町長は、どのように考え、またいつまでに進めるのか。

#### 町長

まずは地域住民、地域団体の意見要望を伺い、地域の活性化につなげたい。

全国の活用事例の研究を含め、庁内に検討委員会の立ち上げを予定している。

「いつまで」「どこまで」は、一定程度の地域住民との合意形成を行い進めていくものなので、時期について、示す段階ではない。

#### 吉筋

2点目は、統合を契機に公共交通の構築をしたいと言いますが、具体策と、三倉、天方地区の子ども足の保障についての考えは。

#### 町長

公共交通計画の短期実施事業券「導入を31年度末までに、また中期実施事業として「乗合デマンドタクシー」の検討をする。

三倉、天方地区の児童生徒の通学方法は、現在の路線バスで対応可能と確認しているが、低学年の乗換や長い通学時間の負担を考えれば、タクシー送迎やスクールバスなど、通学足の確保について、今後検討したい。



大河内から町営バスでの登校風景

## 町政を問う

## ～ 一般質問 ～



鈴 木 托 治

### 太田川ダムは

### 大丈夫か



#### 鈴木托

太田川ダムは供用を開始してから10年となるが、ダムが絶対に大丈夫と言えるのか。

もし、地震等で決壊した場合の被害想定、いわゆる事故のシミュレーションができていますか伺う。

#### 町長

昭和49年に発生した七夕豪雨を教訓に、太田川流域の治水の安全性向上を望む声が高まり、県は太田川ダムの設置を決めた。

ダム建設時の安全性の調査において、最大級の強さを持つ地震動に見舞われても大丈夫だとの評価を受けている。

現在も日々点検や維持管理が適切に行われ、安定したダム機能が維持されている。

#### 鈴木托

山間地において燃料（ガソリン、軽油、灯油）は生活に欠かせない必需品である。

もし、近い将来にス

ランドがなくなつた場合、町としてどのような対策をとるか伺う。

#### 町長

データによると、全国の給油所の数はピーク時の半数に減少している。

浜松市では中山間地域臨時給油所実証実験事業を行っている。

浜松市の実証実験の結果や、他自治体の先進的な取り組みを参考にしながら調査研究していきたい。

その他の質問  
レジ袋をもらわないまちづくりの推進





伊藤 和子

### 第9次総合計画の 課題と実現に向けて



**伊藤** 第9次総合計画の課題について伺う。

**町長** 財源が厳しい中、思うように実行できない事業もある。計画以上に進捗する事業もあれば、社会情勢の変化等により計画通りに進んでいかない事業もある。

そのような事業については、多様な事業手法を検討するなど、より調査・研究を進め、事業に取り組んでいく。

**伊藤** 職員の総合計画に対しての意識向上が必要と考えるが。

**町長** 様々な機会を捉え、職員の総合計画に対する意識向上に努めている。

今後職員と団体、企業を含む町民とが、お互いに役割を分担し、協力しながら総合計画の実現に向けて進めていく。

**伊藤** 財源が厳しい中で、大きな事業に取り組むためには、専門的知識を持った職員が必要になってくる。

今後、国や県から職員を引っ張ってこるといふ考えはあるか。  
**町長** 今後事業を進めていく上で、必要となれば考えたい。

#### 第9次森町総合計画基本の柱

- 1 保健・医療・福祉  
～みんなで助けあう健やかなまち～
- 2 教育・文化  
～先人に学びみんなで育むまち～
- 3 活力・情報発信  
～交流が盛んでにぎわうまち～
- 4 産業振興  
～活気あふれる産業のまち～
- 5 安心・安全  
～いつまでも暮らせるやすらぎのまち～
- 6 自然環境  
～豊かな自然があふれるまち～

## 町政を問う ～一般質問～



加藤 久幸

### 非常用電源として EVを活用しては



**加藤** 台風24号による長期的な停電で不便を感じた住民の方が大変多いと聞いています。

電気自動車(EV)やプラグインハイブリッド車(PHEV)が急速に普及する中、行政は非常用電源としてスマートフォンやパソコンの充電等、災害時の電源対策として活用したらどうか。

**町長** 公用車への導入を検討する場合、災害時に車の電気を利用できることは、他の電力供給がない中では、ある程度有効な手段であると考えられる。

しかし、非常時に電気を供給するための発電機を整備することに比べ、給電のため車両が運送に使用できなくなることや、また費用対効果等を考えると、電源対策として公用車を購入することは、現段階では考えていない。

町民所有のEV、PHVの災害時協力登録者制度については、現状では考えていないので今後の課題としたい。

小中学校における防災対策基準は

**加藤** 台風24号による災害を受け、町内の各小中学校において、防災対策基準の中で対応できていたか。  
また、問題点及び課題を伺う。

**教育** 学校は、「学校警備及び防災計画」(防災マニュアル)を年度始めに作成し、教育委員会に報告することになっている。

そのマニュアルには、大規模停電を想定した記載がなかったため、園長校長会において停電時の対応について記載することや、各学校の地理的な状況を踏まえ、町が発行した「防災ガイドブック」を参考に再度、マニュアルの見直しを行うことを徹底した。

日頃から、防災について教職員のみならず、児童生徒も意識を持ち、このマニュアルの活用が、有事の際の災害予防及び被害を最小限にとどめるものとなるよう、今後も取り組んでいきたい。



小澤 哲夫

# 台風への対応と 今後の対策は



**小澤** 台風24号では、強風が吹き荒れ、倒木をはじめとする多大な被害をもたらした。住民避難と被害対応について、今後に向けての対策を伺う。

**町長** 台風が来る前に避難所の開設をし、風雨が治まったのちに解除した。

自主避難のため無理強いはできないが、もう少し早めの開設、遅めの解除も検討したい。

停電の長期化、断水もあったが、中部電力やN-TTとの連携を密にして対応した。

今後、情報の把握に努め、情報の共有を図っていく。

断水した地域へは、給水車、給水袋、ペットボトルなどで対応したが、個人や各町内会での備蓄もお願いしていきたい。

倒木の可能性のある場所では、所有者に伐採の協力をお願いし、電柱付近では中部電力へ依頼していき

たい。農業では、7770万円余の被害

があり、特にハウスの損傷やレタスの塩害が多く、今後、県からの被災農業者向け経営体育成支援事業補助金を受けて対応していく。

自然災害では、自助・共助・公助が必要で、町民や地域での備えを充分にすることも含め、さらに検討して減災に努めていきたい。



倒木の伐採を行っている様子

## 町政を問う ～ 一般質問 ～



岡戸 章夫

# 三倉地区を 光ファイバー化に



**岡戸** 三倉地区はいまだに光ファイバー化されていない。世帯数が少ないので、企業も消極的なことは理解できるが、通信インフラ格差を是正すべきではないか。

**町長** 基本的に国が整備し、民間業者が進めるものと考えている。

自治体主体で整備する場合、初期費用や維持管理費の負担が懸念されるため、民間通信業者に事業費の見積もりを依頼している。

詳細設計や現地調査が必要なため、来年度までかかる可能性もあり、その結果を見て可能性を検討したい。

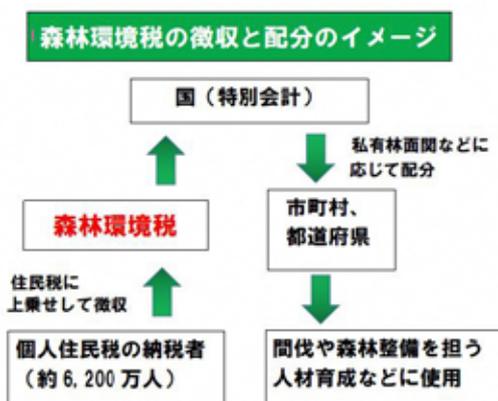
### 森林環境税と森林環境譲与税(仮称)

**岡戸** 森林資源の適切な管理を推進するため、来年度より森林環境税と森林環境譲与税が創設される。森町へ譲与される予算規模と運用計画について伺う。

**町長** 森林環境税の課税は2024年からであるが、来年度より

森林環境譲与税が譲与される。予算規模は、私有林人工林面積・林業就業業者数・人口を踏まえ、約930万円と試算されている。段階的に増加し、6年後には1400万円程度の規模となる予定である。

来年度の用途としては、森林所有者の意向調査・森林情報システムの更新作業・既設林道の修繕費用・森林環境譲与税に係る基金の設置等を検討している。





中根 幸男

# 平成31年度

## 予算規模は



**中根** 平成31年度当初予算の規模と主要な新規事業、継続事業の計画について伺う。

**町長** 平成31年度当初予算は、第9次総合計画に掲げた「人の輪」、「対話」、「調和」の3つの基本理念、そして、町の将来像「住む人も訪れる人も心とらぐ森町」の実現を目指し、人口減少を克服し、活力ある町を維持していくため、事業の必要性・妥当性を吟味し、行財政改革の推進による効率的かつ効果的な予算を、国の動向を注視しながら編成を進めている。

予算規模は、新たな魅力創出発信事業や、企業立地に伴う補助金、新たに創出が見込まれる森林環境税(仮称)に伴う事業費等が見込まれること等から、本年度当初予算(12億1800万円)を上回る規模になると見込んでいる。

主要な新規事業は、予算編成中であり、個別の事業について答えられる段階ではない。

継続事業は、アクティ森を核とし

た新たな魅力創出発信事業、小・中学校での英語教育推進事業、未就学児自己負担の無料化と高校生世代まで拡大したこども医療費助成事業、ふるさと納税推進事業、また国の社会資本整備総合交付金を活用した太田川圃場南4号線改築工事や、周智高校線改築工事、そして遠州の小京都推進事業等について引き続き取り組んでまいりたい。



改築が進む町道周智高校線

## 町政を問う ～一般質問～



西田 彰

# 地域資源エネルギー 木質ペレット普及を



**西田** 化石燃料によるCO2排出で地球温暖化が止まらない。対策の一つとして間伐材など森林材の活用となる木質ペレット製造普及の取り組みがある。森町と近隣の温室メロン農家が10台ほどペレットボイラーを導入している。また、一般家庭にもペレットストーブが普及しつつある。

小さな町から温暖化にブレーキをかけるという、大きな取り組みを官民一体で考えてみないか。

**町長** 二酸化炭素の排出量減には、化石燃料の消費を減らすことが重要と考えられている。木質ペレットは地域資源であり、安定的価格で供給され経済的安定も図れる。また、製造時の二酸化炭素排出量も非常に少ないというメリットがある。町ではメロン農家にボイラー導入の補助をしてきたが、生産台数が少なく、初期導入費用が割高になる傾向がある。

木質ペレットの製造は、森林資源活用として有効だとは思いますが、需要

と供給のバランスが取れ、事業として成立させるには検討課題が多い。

**産業課長** 地球温暖化対策と森林整備という意味では、間伐材を木材のまま利用することが一番効果的かと思う。なぜ、今まで間伐材が利用されず山に放置されたかということ、伐採搬出に費用が掛かる割に、価格が安いという問題がある。

まずは、温暖化対策として森林整備の推進が重要であり、森林環境譲与税をうまく活用することが考えられるのではないかと。

その他の質問  
AED(自動体外式除細動器)を緊急時誰でもが使えるように



木質ペレット製造機前



## 議会からのご報告

森町議会では、人口減少問題対策をテーマに、平成30年7月2日、ボランティア団体等で活躍されている女性の皆様から幅広い意見を伺い、第一・第二常任委員会におきまして、その項目について調査・研究してきました。その中から、町当局から回答をいただきましたので、委員会の検討結果と共に、主な項目についてご報告をいたします。

〈交流会のテーマ〉  
**少子化及び超高齢化社会における、森町の問題は何だと思えますか。**

①森町に子どもが戻ってこない(Uターン)

遠江総合高校との相互協力により、人口減少対策、子育て、防災、観光、高齢者福祉、農業の行政テーマを高校生の目線から、何ができるのかを考えるキャリア教育を行っている。

森町を見つめなおすことで、将来森町に戻ってくることを期待している。

また、若者層の就職機会の創出のため、企業誘致のほか、子育て環境の充実等、Uターンに資する施策を進めている。

②新聞に森町の記事が少ない

町内外に広く「森町」をPRするために、情報発信を強化している。各新聞社やTV局が取材しやすいように工夫して、情報提供した3、4割程度を取り上げていただいている。今後も情報発信を続け、森町のPRにつなげていきたい。

③生活保護家庭は何件か

平成30年9月末現在では、24世帯27人。(森町申請分)

## 意見交流会でいただいたご意見と回答

④食推協は、食べる物のない時代を通じてきた人の知恵がいっぱいあるので残したい

今年度より、広報にて食推協会員の顔写真をレシピとともに掲載して、広報活動を行っている。

今後も活発な活動が継続できるように、活動支援をしていきたい。

⑤学校に対し自分本位な要求をする人がいて、先生方も苦労しているのではないか

保護者の皆さんから様々なご意見、ご要望をいただくことがある。

その声には、どの学校でも誠意をもって対応し、よりよい教育のために頑張っている。

⑥ボランティアで高齢者が頑張っているが、引き継いでくれる人がいない

中学生、高校生を対象として「ボランティア体験入門講座」を、毎年夏休みに社会福祉協議会と共催で開催し、若い世代からボランティア活動に理解を深め、活動に取り組めるよう事業を行っている。

⑦若者は、進学や働き場所を求めて町から出て行っている

若者にとつて魅力的な企業や成長産業企業を誘致することが望ましい

が、現状では、企業が進出して動き手の確保が全国的な課題となっている。

また、会社の設立や起業、創業支援については、商工会が中心となつて、相談会等を実施しているが、今後も連携を強化し、支援体制の確立を図っていく。

⑧結婚しない若者が多い

社会福祉協議会では、毎月第2日曜日に結婚相談事業を実施している。商工会でも、2月に体験の里アクトイ森において、婚活イベント「ええら!!森婚」を開催している。

町としては、定住推進課が12月15日に、天浜線を使った婚活イベント『ときめき★クリスマスチャンス!森町&天浜線婚活列車』を開催した。初の婚活イベントとなるため、今後につなげていきたい。



⑨生活費や教育費がかかるため、出産を抑える傾向がある

国は本年10月から、消費税率を10%へ引き上げることが公表した。

増税分は「全世代型の社会保障制度」を目指したものであり、同時に幼児教育の無償化がスタートし、翌年には高等教育の無償化をスタートする方針といわれている。

森町としても、更なる子育て支援の充実を目指していきたいと考えている。

⑩森町全域で遊休農地が増えている  
対策として、農地中間管理事業の実施や、小規模基盤整備事業などを実施している。

一方で、急斜面など耕作が極めて困難な農地については、農地利用状況調査などの確認を経て、非農地化を行っている場所もある。

今年度行った農振計画の定期変更において、整備が見込めない場所など、青地から白地に変更した場所もある。

⑪買い物をしたいがお店がなく、買い物弱者が増える

商店数が減少し、買い物に不便を来している方もいるが、宅配を一部のコンビニエンスストア、生協、食材配達業者やネットスーパーが行っている。



移動販売

また、森町と袋井市で運営している、袋井ファミリーサポートセンターが、買い物同行を実施している。移動販売については、社会福祉協議会が平成28年度から、買い物弱者が多い三倉地区において、町内事業者の協力により惣菜販売を始めた。今後は、どのような支援の仕方が効果的であるか、検討していきたい。町では、移動支援ボランティア養成講座を開催し、養成されたボランティアが活躍できるよう、生活支援コーディネーターが中心となり、相互支援の仕組みづくりの実現に向けて取り組んでいる。

## 意見交流会でいただいたご意見と回答

### 遠州の小京都まちづくり 基本構想

平成27年3月 遠州の小京都まちづくり推進会議

森川橋のたもとにある「森町之賦」



### 継承する 発信する もてなす

|                          |   |
|--------------------------|---|
| はじめに                     | 1 |
| 1 小京都とは                  | 1 |
| 1-1 小京都について              | 1 |
| 1-2 森町と小京都の関係            | 2 |
| 2 「遠州の小京都」とは…～森町が描く小京都像～ | 4 |
| 2-1 「遠州の小京都」とは(現代版:森町之賦) | 4 |
| 2-2 「遠州の小京都・森町」のまちづくりの目標 | 4 |
| 3 「遠州の小京都」のまちづくりの推進に向けて  | 5 |
| 3-1 まちづくりの基本方針           | 5 |
| 3-2 まちづくりの推進に向けたねらい・方向   | 6 |
| 3-3 まちづくりの提案             | 7 |

⑫行政と観光案内所との連携が取れていない

遠州森駅前観光案内所については、観光協会に加入していないため、観光協会との連携が取りづらい面もある。

行政としては、閉庁日の観光案内の場として、遠州森駅前観光案内所の会に業務を委託しており、連携が取れていると感じている。

⑬小京都を聞かれても説明できない  
遠州の小京都の考え方については、平成26年度に策定した、遠州の小京都まちづくり基本構想で示したとおり、森町全体で「遠州の小京都」としてあり、場所として「ここが遠州の小京都」ということを示していない。

基本構想の考え方が住民に認知されていないということもあるため、まちづくりとしての「遠州の小京都」を住民に認知してもらうことは重要であると考えている。

交流会のテーマは「元氣な森町を維持していくためには何が必要だと思えますか。」

①結婚や出産を安心してできるように、安心して子どもを預けられる制度を充実してほしい

現在森町では、入所待機はなく、施設整備や保育士確保により、一層の受け皿充実を目指している。

保育士確保の支援として、保育士の家賃補助を、認可外保育施設を利用する世帯には、負担軽減のため保育料の助成を実施している。

このほか、幼稚園の延長保育や、放課後児童クラブ・放課後子ども教室の安定した運営継続を図っている。議会では、現在の公立幼稚園を幼稚園教育と保育を一つの園で行うよう、認定こども園にして、3歳児からの保育を可能にするよう提言した。

②広報もりまちに、出生・お悔やみ欄、戸籍の窓を復活してほしい  
出生・お悔やみ欄、戸籍の窓は、平成12年3月号をもって掲載を終了した。

現在の社会事情に合致しておらず、プライバシー侵害にもつながる恐れがあることから、復活は考えていない。

③町営バス事業の改善を最優先に進めて欲しい

議会では、高齢者等交通弱者対策は急務であると考え、町営バス等事業の見直しも含め、「乗り合いシステムドタクシー」制度の導入を、早期に実施するよう町に提言した。



町営バスのデマンド

④高齢者でも、生活するために車の運転が不可欠である  
ドライブレコーダーデータを基にした安全講習を実施してもらいたい

平成29年度は、講話や運動を主とした高齢者向け交通安全講習を21回開催し、今後も継続していく。映像を用いた交通安全講習は可能だが、依頼内容に沿った映像が実施できないこともある。

## 意見交流会でいただいたご意見と回答

⑤定年後でも頑張っていけるよう、体を鍛える場をもっと増やすべきではないか

総合体育館には、だれでも利用できるトレーニング室があり、町営グラウンドや小中学校の体育館なども利用できる。  
また「森の夢づくり大学」でもスポーツの講座がある。

⑥みやま荘にスポーツジムのような運動器具を置いてほしい  
みやま荘は、介護や介護予防に係る事業という目的を持った施設のため、設置は難しい。

⑦同報無線で「かわせみ体操」などを流したり、集会所にDVDを設置して、運動の啓発を  
同報無線担当課と協議していく。  
集会所へのDVDプレイヤーの設置は、町内会で検討していただきたい。

⑧山間地での交流サロン利用について、バスを出してほしい  
移動手段としてバスの運用は、難しいと考える。

移動支援ボランティアの養成講座を実施し、現在、修了者と活動等の仕組みづくりを進めている。  
サロンは身近なところに存在することが理想であるため、「元気もりもりサポーター」による出張運動教室を開催しているが、要望があれば、サロンとして継続できるよう協議していきたい。

⑨テレビでやっている婚活企画を森町でもやってほしい  
町では、4市1町で連携した結婚相談事業を社会福祉協議会に委託し、登録者のお見合いが進むよう取り組んでいる。

⑩企業も婚活に協力すべきだ  
結婚相談事業としては、企業等への働きかけはしていないが、商工会青年部が企画する婚活事業は、企業が関わっている。

⑪男性も含めてボランティア活動に参加しやすい環境が必要  
保健福祉課では、介護予防事業の担い手育成を目的に、ボランティア養成講座を開催している。  
女性が多いものの、男性の受講者も増えつつある。  
今まで養成したボランティアの組織化を図り、活動が充実できるように検討していきたい。

⑫ ケアハウスの建設をしてほしい  
現在、町内にケアハウスはなく、今後も新規設置は見込んでいない。昨年6月、園田地区(中川)にて有料老人ホームが開設された。要介護認定を受けている方であれば、入所可能な施設となっているので、選択肢の一つとして検討いただきたい。

⑬ 三倉地区の空き家利用者を増やしてほしい  
森町内全域で空き家は増えており、利活用を進めるため「空き家・空き地バンク」を創設した。

移住希望者へ情報提供することも、利活用を促進するための支援制度などを検討している。

⑭ 農地転用を緩和して工場や企業を誘致すべきだ  
農地転用に関しては、農地法により緩和することは難しい。

個別具体的な計画に対して、青地であればこれを外すことが妥当であるか判定し、同時に転用可能であるか確認する手続きとなる。

今年度行った農振計画の見直しにおいては、県が進める「内陸のフロンティアを拓く取組」を推進するため、森掛川ICや遠州森町PA周辺などで、農用地区域の一部を白地に変更を行った場所もある。

⑮ 町内の企業に対して森町への移住定住をPRしたらどうか  
各企業へ移住に関するパンフレットを配布するなど、情報提供を図りたい。

また今年度、町内企業の社員を含めた若者会議を開催し、まちづくりに関する意見をいただいた。森町への移住に関する情報提供をあわせて行っていきたい。



移住促進パンフレット

⑯ 家族何世代でも一緒に暮らしていける環境が必要  
別居を望む傾向がある中、森町は一世帯あたりの世帯人員が2.99人で、静岡県の市町では一番多く、世代同居が多いと考えられる。

宅地造成については、民間事業者等が主体となり、町との連携協力により進めていくものと考えている。支援策については、十分に調査・研究していく。

## 意見交流会でいただいたご意見と回答

⑰ 高齢者雇用の場をもっと増やす必要がある  
高齢者の求人が多い職種は、主に軽作業(調理補助、掃除、介護事業所送迎運転手など)で、就労については、ハローワーク等関係機関との連携を図り、情報収集に努めるとともに、就業機会の確保や生きがいづくりの場として、シルバー人材センターの活用と会員募集等、シルバー人材センターの活動に支援をしていきたい。



⑱ 観光に力を入れ、展示物や動画、説明員などで森町の観光について案内ができる拠点場所を作ってほしい  
観光振興・物産振興の拠点整備については、ニーズや財政面を考慮し、継続して検討していく。



山里の市

⑲ 企業などと協力して道の駅を作り、特産品等をもっとPRすべきだ  
町内には、JA遠州中央「森の市」や「宮の市」、アクティ森内の「山里の市」など特産品の販売所があるため、道の駅を作ることににより民業を圧迫する可能性もある。  
多くのトウモロコシ直売所や、茶店、和菓子屋が点在することも、森町の魅力の一つであると考えている。特産品のPRについては、マスコット等の取材協力を積極的に行っていく。

# 組合議会報告

中遠広域事務組合議会  
 袋井市森町広域行政組合議会  
 太田川原谷川治水水防組合議会  
 中東遠看護専門学校組合議会  
 東遠学園組合議会  
 養護老人ホームとよおか管理組合議会

※一部事務組合とは、複数の市町等が、行政サービスの一部を共同で行うことを目的として設置する組織

金額は万円未満四捨五入

埋立て期間  
 平成19年1月～平成34年12月



一宮最終処分場

中遠広域事務組合議会  
 粗大ごみ処理及び一般廃棄物最終処分事業を、磐田市・袋井市・森町が共同で行う中遠広域事務組合の平成29年度決算額は、

歳入 8億8392万円  
 歳出 8億2051万円  
 となりまして、

ゴミの処理量は、粗大ごみ処理 1473トン  
 最終埋め立て処分 6355トン  
 森町の分担金は5585万円となりました。

最終処分場がある一宮地区の道路などの整備に充てるため、町に3500万円が支払われました。

袋井市森町広域行政組合議会  
 袋井市と森町が共同で行う消防、ごみ処理、し尿処理、火葬の平成29年度決算額は、

歳出 27億3688万円  
 歳出 27億1139万円  
 となりまして、

森町の分担金及び負担金は、4億8388万円となりました。

平成29年度の火災発生状況は、袋井市 48件、森町 10件

でした。

平成29年度 可燃ごみ搬入量 (単位:t)

| 地区別  | 委託業者<br>(各地域収集) | 一般持込<br>(直接搬入) | 許可業者<br>(事業所収集) | 汚泥<br>(下水・し尿) | 合計        |
|------|-----------------|----------------|-----------------|---------------|-----------|
| 袋井市  | 13,289.26       | 3,658.02       | 6,735.45        | 3,197.59      | 26,880.32 |
| 森町   | 2,198.90        | 525.24         | 869.20          | 0.34          | 3,593.68  |
| 行政組合 | 0               | 0              | 0               | 1,499.25      | 1,499.25  |
| 中遠広域 | 0               | 51.91          | 0               | 0             | 51.91     |
| 計    | 15,488.16       | 4,235.17       | 7,604.65        | 4,697.18      | 32,025.16 |

中遠クリーンセンター  
 (袋井市岡崎)

表の説明

行政組合：袋井衛生センター

中遠広域：粗大ごみ処理施設

森町は下水汚泥の処理を埼玉の業者に委託しているため、汚泥の搬入量が少ない

中遠クリーンセンターへのごみの搬入量は、

袋井市 26880トン  
 森町 3594トン  
 となりまして、

袋井衛生センターへのし尿及び浄化槽汚泥の搬入状況は、

袋井市 42113キロリットル  
 森町 7575キロリットル  
 となりまして、

中遠聖苑の使用状況は、

袋井市 811件  
 森町 242件  
 となりまして、

太田川原野谷川治水水防組合議会  
 太田川流域の磐田市・掛川市・袋井市・森町が、国・県への要望活動や水防演習などを行う、太田川原野谷川治水水防組合の平成29年度決算額は、

歳入 673万円  
 歳出 635万円  
 となりまして、

国・県への要望事項

- ① 治水関係予算の拡大確保
- ② 太田川水系の河川改修事業の促進
- ③ 河川堤防の維持管理予算の拡大確保
- ④ 河川堤防の粘り強い構造への改良促進

森町の分担金は、102万円となりました。

平成30年11月現在 ( )内:男性人数 単位:人

| 医療機関        | 就業者数(卒業年度別) |        |        | 進路      |
|-------------|-------------|--------|--------|---------|
|             | 平成27年度      | 平成28年度 | 平成29年度 |         |
| 磐田市立総合病院    | 24 (7)      | 27     | 23     | 21 (4)  |
| 中東遠総合医療センター | 17 (2)      | 23 (5) | 20 (3) | 25 (5)  |
| 市立御前崎総合病院   | 0           | 3      | 4 (1)  | 6 (1)   |
| 菊川市立総合病院    | 11          | 5 (1)  | 2 (1)  | 1       |
| 公立森町病院      | 2           | 1      | 7      | 3       |
| 管内病院 計      | 54 (12)     | 59 (6) | 56 (5) | 56 (10) |
| その他(管外、進学他) | 1           | 2      | 5 (1)  | 1       |
| 合計          | 55 (12)     | 61 (6) | 61 (6) | 57 (10) |
| 国家試験合格率     | 100.0%      | 100.0% | 100.0% | —       |

東海アクシス(袋井市上田町)からの進路状況

中東遠看護専門学校組合議会  
(東海アクシス看護専門学校)

磐田市・掛川市・袋井市・御前崎市・菊川市・森町の5市1町が共同して、中東遠地域の医療機関への看護師の充実に目指す、中東遠看護専門学校組合の平成29年度決算額は、  
歳入 3億 229万円  
歳出 2億8918万円  
森町の分担金は、1417万円となりました。  
奨学金貸与特別会計決算額は、  
歳入 1億1267万円  
歳出 1億 588万円  
森町の分担金は、216万円となりました。

東遠学園組合議会

発達支援及び障害福祉事業を、菊川市・掛川市・御前崎市・森町・浜松市が共同で行う東遠学園組合の平成29年度在籍者数は386名で、決算額は、  
歳入 6億5697万円  
歳出 6億3240万円  
となりました。  
青年・児童・通園・地域福祉を合わせた森町の分担金は、1394万円となりました。

養護老人ホームとよおか管理組合議会

養護老人ホームとよおかは、磐田市・浜松市・森町で構成される管理組合が、社会福祉法人天竜厚生会を指定管理者として指定し、運営されています。  
平成29年度の入所者数は、年間平均45人となり、決算額は

歳入 1億1858万円  
歳出 1億1576万円

となりました。

森町からは5人の方が入所し、分担金は127万円となりました。

養護老人ホームは全国的に入所者数が減少傾向にあり、当施設も同じような状況にあるため、今後の運営方法を考えていかなければなりません。

森町手話言語の推進に関する条例可決

12月定例会で「森町手話言語の推進に関する条例」の制定を可決しました。  
本条例のポイントを紹介します。

明治13年、イタリア・ミッソの国際会議で「ウツマ口話法の優位を宣言されて以降、平成18年の国連における「障害者の権利に関する条約」の採択まで、130年以上手話は法律上、言語として認められていなかった。

このため、ろう学校では、口話法を中心とした教育がなされてきた。

平成23年障害者基本法の改正により、手話は言語として認められたが、認識や使いやすい環境の整備が不十分であり、ろう者が安心して暮らせる社会は程遠いものであった。

そうした中、全国の自治体が、手話への理解の促進及び手話の普及のための施策を、総合的かつ計画的に推進するため、条例制定に動き出した。

平成30年11月20日現在の、全国の条例制定自治体数は、24道府県・2区・152市・19町、計197自治体で、県内の町では、最初の制定となりました。

※ウツマ口話法……話し手の口の動きや表情を読み取る話法



手話言語を推進する皆さん

# みんなのこえ

## 森町体育協会剣道部 (精武館)

精武館の名前は、昭和7年頃に、田中健太郎先生により創設された道場のお名前を継承しています。

創設当時の道場は、現在の森小学校のプールの場所にありました。

団旗の言葉「順道制勝」の教えを基に、小学生・中学生が週2回、天方小体育館・豊田合成体育館を中心に稽古に励んでいます。

初心者は、ストレッチ・体幹・礼法・素振りを基本から始めています。

2年目以降の子どもたち



は、県内の各錬成会・試合に出場し、精神力・剣道技術のレベルアップと、各団体との交流を図っています。

生涯剣道を目指し、

- 高校剣道部
- 磐田東高 在籍者
- 常葉菊川高 在籍者
- 掛川西高 在籍者
- 磐田東高 卒業生
- 磐田南高 卒業生
- 掛川西高 卒業生
- 中学剣道部
- 磐田東中 在籍者
- 浜松西高等学校 在籍者
- が稽古に励んでいます。

また、指導の先生方も各種指導者講習会に出席し、指導者のレベル向上にため、部員以外の人を含めた稽古会も第2・4金曜日夜8時から森町総合体育館で行っています。

詳細は「精武館」ホームページをご覧ください。

子どもから大人まで見学自由です。

※部員募集中です。

代表 白畑 安信(南町)

電話 (053) 61332

もりまち議会だより第78号  
平成31年(2019年)2月15日発行



体協(精武館)

発行 静岡県森町議会  
編集 議会だよりの編集委員会

## 議会を聴きに来ませんか

12月議会では、のべ74人の方が、議会へ足を運んでくださいました。

予約は必要ありません。手続きも簡単です。

議場は役場3階です。

是非、お越しくください。

- 定員数28名
- お問い合わせ先……議会事務局  
電話 0538-85-6329

## <3月定例会の予定>

|          |      |     |
|----------|------|-----|
| 3月 1日(金) | 本会議  | 初日  |
| 3月 5日(火) | 本会議  | 2日目 |
| 3月 7日(木) | 常任委員 | 会   |
| 3月 8日(金) | 常任委員 | 会   |
| 3月11日(月) | 常任委員 | 会   |
| 3月22日(金) | 本会議  | 最終日 |

※会議の開始時間は午前9時30分です。

※日程が変更される場合もありますのでご了承ください。

## 森町折々の写真を募集中

議会だよりや議会ホームページで使用する写真やイラストを募集しています。

詳細は、議会ホームページをご覧ください。

議会事務局までお尋ねください。

提出・問い合わせ先  
森町議会事務局  
〒437-0293 森町森2101の1  
0538-85-6329  
morimachi.gikai@gmail.com



応募内容

## 出前議会報告を実施します

町民の皆さまに、議会をより身近に感じていただけるよう、議会報告に伺います。

開催希望の団体(町内会、各種団体など)は、議会事務局までご連絡ください。

## ♡♡♡♡

数年前より、近所の友人と三人で週二回のウォーキングをしています。季節を感じながらの散歩は、いい気分転換になっています。

友人と歩かない日は、一人で歩いたり、テレビを見ながら足踏みしたりして、一万歩程度歩くよう心がけています。健診では、運動により善玉コレステロールが増加するので、散歩は続けるよと言われました。

議場は役場の三階にあり、今年度一部改修しました。新装の議場で町の将来を考え、論戦を交わす森町議会の傍聴に、運動がてら足を運ぶのはいかがでしょうか。善玉コレステロールが増えるかもしれません。(〇)

## 議会だより編集委員会

- |      |        |
|------|--------|
| 議長   | 山本 俊康  |
| 委員長  | 亀澤 進   |
| 副委員長 | 岡野 豊   |
| 委員   | 中根 信一郎 |
| 委員   | 加藤 久幸  |
| 委員   | 岡戸 章夫  |

〒437-0293 静岡県周智郡森町森2101-1  
TEL 0538-85-6329 FAX 0538-85-6044  
https://www.morimachi.gikai.com/  
E-mail: morimachi.gikai@gmail.com